



福島県

中学校長会の窓

福島県中学校長会
福島県中学校長会広報部
朝日印刷株式会社

勝山市昭和町3丁目2-63-1
TEL (0779) 87-0027

第 149 号
令和 7 年 2 月 17 日発行

第64回 第73回 東北北陸中学校長会研究協議会 福島県中学校長研究大会

福島県大会

令和6年7月4日(木)・5日(金)

挨拶



本日はこちら
福島県七尾の地に東
海北陸七尾の
約七〇〇人の
会員が一堂に

東北北陸中学校長会 水野 克己

会し「第六十四回東北北陸中学校長会研究協議会福島県大会」を開催できますことに心より感謝申し上げます。また、公務ご多用の中、福島県教育庁副部長の廣部真寿美様、福島市副市長の小寺正樹様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

はじめにこの場を借りて、元日に発生した「能登半島地震」により被災された皆様に心から御見舞い申し上げます。被害に遭われた皆様に一日も早く平穏な日常が戻ってくることを切に願っています。

さて、近年、社会の情勢は、人口減少や少子高齢化の急速な進展、絶え間ない技術革新、そしてグローバル化の加速などにより、環境や状況の変化が激しく、先の見通しはますます予測困難になっていきます。このような状況の中で、子供たちが予測できない変化に果敢に対処し、自らの可能性を発揮して

未来を切り拓いていくことができよう、教育に関する様々な改革が進められています。昨年の六月に閣議決定された「第四期教育振興基本計画」では、「持続可能な社会の創り手の育成」、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」という二つのコンセプトや基本方針等が明示されました。

これからの学校では、子供たちを誰一人取り残すことなく、一人一人に個別最適な学びや協働的な学びを実現するなど「令和の日本型学校教育」を構築し、推進していくことが求められています。それに加え、いじめや不登校、多様化・深刻化する生徒に関わる問題への対応、教職員のメンタルヘルス対策や若手教員の育成、部活動の地域移行への対応などにも取り組んでいく必要があります。それらは一朝一夕にはいかない時間がかかるものばかりです。

一方で、教育現場の長時間労働や教員採用試験の倍率低下は深刻な問題となっており、教員不足は喫緊の課題です。この課題解決のためにも、学校における働き方改革を強力に推進していかなくては

なりません。

三年以上続いたコロナは昨年五月より五類感染症に移行され、学校は教育活動の幅が広がりました。今こそ教育目標を具現化していくチャンスであり、新しい時代の教育に向けた学校経営を展開していく変革のときでもあります。ただし、そこには、生徒や保護者、地域の様々な思いや期待があります。ますます複雑化・多様化する地域の課題やニーズにも思いを馳せ、地域とのパートナーシップを築きながら、持続可能な教育改革を推進していくことが私たちに求められます。

校長は今、難しい学校運営を迫られていること、更には、校長自らが資質向上に取り組んでいくことの必要性を強く感じます。このような時だからこそ、私たち校長は、学校の最高責任者としての使命感や教育理念とビジョンをもち、課題解決に向け、リーダーシップを発揮していくことが不可欠です。

本大会の研究主題は「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」です。昨日は、全日中新教育ビジョンの趣旨を踏まえ、八つの分科会に分かれて東北北陸の各

挨拶



全日本中学校長会 青 梅 正

御挨拶に先立ちまして、冒頭に、一般の能登半島地震で亡くなられた方々に、心から哀悼の意を表します。また、被災されました方々に御見舞い申し上げますとともに、

地域の実践や研究成果について、口頭発表をもとに共有し、グループ協議では活発な意見や情報交換がなされました。本日の全体会ではこの後、書家でプレゼンテーションクリエーターの前田鎌利先生の「チームマネジメント 自走力UPの極意」と題したご講演もあります。校長として興味深いお話が聞けると期待しています。

本日御参会いただいた校長先生方におかれましては、本大会での学びを福井のお土産としても帰っていただき、皆様の手でこれからの学校経営に活かしていただければ幸いです。今後とも、東北北陸中学校長会は相互の緊密な協調を保ちながら、課題意識や情報を共有し、英知と創意を結集して、新しい時代の教育に向けた次の新たな一歩を踏み出し続けていきたいと考えています。そして、中学校教育の一層の充実・発展に貢献できることを願っています。

結びに、本大会を開催するにあたり、御指導と御支援を賜りました福井県、福井県教育委員会、福井市、福井市教育委員会、全日本中学校長会並びに関係諸機関の皆様、心より感謝と御礼を申し上げます。挨拶といたします。

さて、本日は第六十四回東北北陸中学校長会研究協議会福井大会に、福井県・福井市から多くの御来賓の方々を御迎えするとともに、多くの参加者のもと盛大に開催されますことを心から御慶び申し上げます。

御挨拶に先立ちまして、冒頭に、一般の能登半島地震で亡くなられた方々に、心から哀悼の意を表します。また、被災されました方々に御見舞い申し上げますとともに、

ます。これまで本大会の開催にあたり、準備を進めてこられました、東海北陸中学校校長会会長であり、福井県中学校校長会会長でいらっしやいます水野克己様、本大会実行委員長永廣裕子様をはじめ、福井県中学校校長会の皆さま、そして東海北陸中学校校長会の皆さまや関係の皆さまの御努力に対し、心より敬意を表する次第です。また、御支援御指導を賜りました福井県並びに福井県教育委員会、福井市並びに福井市教育委員会の皆さまをはじめ、多くの関係の皆さまに深く感謝申し上げます。

ところで昨今、学校が対応する課題が複雑化、困難化していることに加え、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。このような社会変化に対応し、日本の学校教育は更なる高みを目指しており、子供たち一人一人が予測できない変化に主体的に向き合っていく能力を、その過程を通して自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の作り手となっていくことができるようにすることが重要です。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、また、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して、新たな学びの実現による学校教育の質を向上させることが求められています。

このような新たな学びは、より高度な指導力を必要とするものであり、現職教師の指導力向上とともに、教職の魅力を向上し、教育界内外から教師に優れた人材を確保し続ける環境整備が必要不可欠となります。そのためにも全日中は、現行の学習指導要領の理念の

実現、GIGAスクール構想の推進、学校における働き方改革の加速化、学校部活動の地域連携や地域スポーツ、文化クラブ活動への移行、教師の人材確保など、中学校教育を巡る諸課題に対して果敢に挑戦し、校長相互の資質向上と目的を明確にした研究を推進することにより、学校経営の更なる充実と学校からの教育改革を進めていかなければなりません。本大会の開催意義もここにあります。

全日中は教育のプロである全国の校長を会員として構成し、教育の世界では非常に大きな影響力をもつ組織であります。そして、政策提言できるだけの大きな影響力をもてるのは、全日中が実践もあり、理論もある実践的専門家集団であるからということです。全日中が力を結集して進む道は、我が国の中学校教育の過去に足跡を残すとともに、未来を切り開きます。

祝 辞



本日、約七〇〇名の校長先生に御参加いただき、東海北陸中学校長会研究協議会福井大会が盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。本大会は、研究主題、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」のもと、昨日は八つの分科会で活発な協議が繰り返されたという聞いております。

今の子どもたちが成人する頃は、

今後全日中と東海北陸中学校長会とが一層緊密な連携を図るとともに、会員の皆さまの英知を結集して取り組んでまいりましょう。

最後になりましたが、御来賓の皆さま、本日は御多用の中、御臨席賜り誠にありがとうございました。今後とも一層盤石な地域力・組織力で、全日本中学校校長会並びに東海北陸校長会、福井県校長会を支えていただきますようお願いいたします。

結びに、本大会の成果が明日からの学校経営に資するものとなりますことを御期待申し上げますとともに、東海北陸中学校校長会がこれまでますます充実発展されまふこと、そして、会員の皆さま方の更なる御活躍を祈念いたします。本日もどうぞよろしく願ひいたします。

福井県知事 杉本達治

将来の予測が困難な時代、人口減少時代等とも言われ、一人ひとりの果たす役割がさらに広がり、より主体性をもって挑戦し続けることのできる人材が求められています。学校では、「主体的・対話的で深い学び」が求められています。現場では不登校生徒への支援やSNSを利用した問題行動への対応等課題が山積しております。一方、学校における働き方改革が求められ、問題に対応する時間の捻出に苦慮しているところであります。こうした課題の解決に本大会で得られた情報が、教育現場で活用さ

れることを期待しております。

本県では、令和元年度に策定した「教育に関する大綱」や「教育振興計画」に基づき、「一人一人の個性が輝くふくいの未来を担う人づくり」を基本理念に、子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育を進めてきました。特に重点施策として、子どもの主体性を大切に「個性を引き出す教育」、子どもが知的好奇心や探究心をもち「学びを楽しむ教育」、地域に貢献しようとする心を育む「ふるさと教育」、この三つの観点で子どもたちを主役にした教育を進めてきたところです。これらの取組みの中でいくつかご紹介させていただきます。

まず、本県の特徴ある施策として、ふるさと教育を紹介いたします。本県では自然体験活動や職場体験、ボランティア活動にとどまらず、児童生徒が地域の人々とともに、地域の名所やよいところを再発見し、発信する企画提案型の体験学習を進めています。各校においては、地域の課題を見つめ直し、持続可能な社会の実現に向け、新たな価値観や行動を生み出す探究活動を実施しており、児童生徒が意欲的に学習に取り組んでおります。ふるさと魅力発信する取組みとして、小中学生を対象に「ふるさと福井の魅力 プレゼンテーション大会」、小中高生を対象に「ふるさと福井CMコンテスト」を開催しております。また、ふるさと学習の成果や地域の伝統文化を発表し、交流する場として、二月に「福井ふるさと教育フェスタ」を開催しております。特にプレゼンテーション大会においては、この後の講演会の講師でもあります。

前田謙利氏に審査員等を務めていただいています。

「個性を引き出す教育」の一環として、県では「ふくい理数グランプリ」や「ふくい理数ゼミ」などを開催し、児童生徒の興味関心を高める取組みを行ってまいりました。令和五年度からは、小学生向けの「サイエンスショー」や「算数ナゾトキ教室」、中学生向けキャリア教育出前授業を開催し、さらに理系人材の育成に力を入れています。

中学生向けの「キャリア教育出前授業」は、本県出身の科学者や県内企業の研究者から進路や職業を選択した経緯、研究の楽しさや魅力について聞くことができ、オンラインでも配信したところでもあります。大学でもリケジョを求める学部が増設されていますが、男女問わず、理系分野への興味関心を高めてくれればと考えています。

本県は不登校対策として「魅力ある学校づくり」に取り組んでいます。不登校の児童生徒や不登校の兆しが見え始めた児童生徒を支援するため、教室とは別の居場所を校内に設ける「校内サポートルーム支援員事業」を実施しています。今年度は県内小中学校の二割にあたる五〇校で実施しているところです。校内サポートルームがただの居場所ではなく、悩みや不安をもつ生徒が安心できる居場所となるよう、各学校で工夫がされておられ、児童生徒が自信をもてたり、登校できる日が増えたりするなど、成果を上げています。

また県では、教職員が子どもと関わる時間をできるだけ確保するよう、学校の業務改善を進めてま

いりました。具体的には、管理職による勤務時間管理の徹底、学校運営支援員や部活動指導員などの外部人材の活用、校務支援システム導入による効率化、小学校高学年の教科担任制の拡充など、さまざまな取り組みを行ってまいりました。また、よりよい学校業務改善、教員の働き方改革のため、県内各校における好事例などを紹介する「学校業務改善ニュース」を発行しています。令和五年度は二〇号を発行しており、県のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

さて、今年三月十六日、北陸新幹線福井・敦賀間が開業いたしました。開業から三か月、来訪者は増加し賑わいを見せているところです。福井県北部には、大本山永

祝 辞



皆さん、おはようございます。ようこそ福井にお越しくださいまし

した。私は福井市の副市長としております小寺と申します。校長先生、皆さま方におかれましては、昨日と今日の研究会で成果を得るということが一番重要でございますし、私としてもそのことを期待しているわけでございますが、せっかく福井においでいただいたので、お時間の許す限り福井を楽しんでいただいて、そしてよかったなと思う点を、それぞれお土産としてお持ち帰りをいただきたいと思います。そして修学旅行や、オンラ

平寺、一乗谷朝倉氏遺跡、県立恐竜博物館、そして県南部には気比の松原や年輪博物館など見どころがたくさんございます。伝統工芸としては、大河ドラマ『光る君へ』でも紹介されました、越前和紙をはじめ、越前焼や越前漆器などたくさんございます。また、越前がにを筆頭に、農水産品も多数ございますが、本日の昼食としては越前おろしそばやソースカツ丼などをお勧めいたします。皆さまにはこの機会に、本県の魅力を大いに満喫していただければ幸いです。

終わりに、本大会の成功と東海北陸中学校長会のますますのご発展と、本日御参加いただいた皆さま方のご活躍を心から御祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

福井市副市長 小寺 正樹

イン研修などで再び福井の地においでいただければ幸いです。それではお祝いの言葉を申し上げます。本来であれば、福井市長西行茂がお邪魔してお伝えするところでございますが、あいにく今日まで海外に出張しておりますので、メッセージを預かってまいりました。これをお伝えさせていただきます。

祝辞。第六四回東海北陸中学校長会研究協議会福井大会の開催にあたり、開催地を代表いたしました一言御挨拶を申し上げます。昨日の分科会に引き続き、本日の大会がこのように盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、東海北陸七県からお越し

いただいた皆さまを心から歓迎いたします。

さて、本市では、こどももなかなか社会の実現に向けて、子供たちが夢や希望を持ち、未来を切り開く力を育むことができるよう、学校や地域の特色を踏まえたキャリア教育を推進するなど、時代の変化に対応できる力を育む教育に努めているところでございます。本大会は「新たな時代を切り開き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を研究主題とし、分科会では各学校のリーダーである皆さまが、テーマに沿って協議をされたと伺っており、大変意義深く感じているところでございます。皆さまには、本大会を契機として更なる研鑽を積まれ、社会のさまざまな分野で活躍できる人材の育成に引き続きご尽力されますことをご期待申し上げます。ここでせっかくの機会でございますので、福井市の紹介をさせていただきます。

今年三月に北陸新幹線福井開業を迎え、新幹線で訪れた方々は賑わいを見せております。今回皆さまの中にも新幹線でおいでいただいた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。福井駅構内や周辺には商業施設が新しく出店し、福井を代表する食やフットスポットなど楽しめる場所が数多くございます。

また、少し足を延ばしていただければ、中世の貴重な史跡である一乗谷朝倉氏遺跡も福井藩主松平氏の別邸養浩館庭園など、皆さまにぜひ、訪れていただきたい名所や史跡もございます。この機会にぜひ、お立ち寄りいただき、福井の魅力を堪能していただけたら幸いです。結びに東海北陸

中学校長会のますますの御発展と皆さまの御健勝とさらなる御活躍を祈念申し上げ、お祝いの挨拶とさせていただきます。



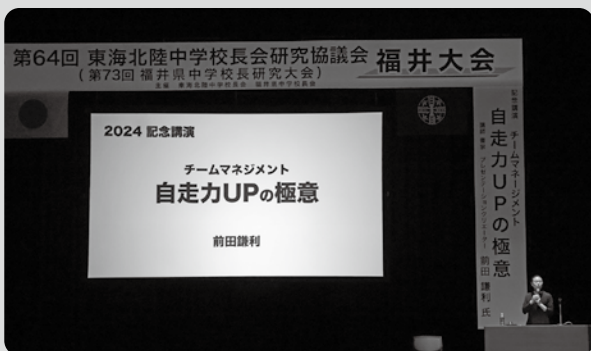
御来賓の皆様

令和六年七月五日、福井市長西行茂。代読をさせていただきました。本日はおめでとうございます。



記念講演

【講師】 前田 謙利 氏
【演題】 チームマネジメント
～自走力UPの極意～



講演を動画でご覧いただけます。
福井県校長会 HP > 教育研究大会 > 東陸中福井大会にて公開中です。是非、御覧ください。

未来を切り拓く多様な人材を育むキャリア教育の充実 ～地域を愛し、役に立とうとする夢をもった人材の育成～

発表者 池田中 森 岡 裕 一

◎発表要旨

キャリア教育の研究を進めるにあたって、「地域」ともにある学校」としての役割が特に重要と捉え、次の三点が地域から期待されている学校の使命ではないかと考えた。

- ・将来にわたり地域で生活を営み、世代をつなぐ人の育成
- ・地域に誇りを持ち、地域の担い手として貢献し活躍する人の育成
- ・地域の良さを知り、世の中にその魅力を発信できる人の育成、そして、ふるさと学習の充実が、地域の願いを叶え、生徒のキャリア発達を促すことにつながると考えた。

①各学年での取り組み

一年生の実践【地域を知ろう】

- 池田町の魅力発見
- ・約1kmのジップラインが楽しめるレジャー施設「ツリーピクニック」や、日本の滝一〇〇選の「龍双ヶ滝」に出向き、観光資源としての魅力を取材した。
- ・町の農作物や特産品を販売しているアンテナショップでは、商品の良さやお客様へのアピールポイント等を取材した。

- ・大規模工事中の足羽川ダムや新板垣トンネルでは、工事の概要について説明を受け、完成後にもたらされるメリットなどについて取材した。
- ・現地取材を通して池田町の魅力を知り、掲示物や動画等でアウトプット

トし、お互いに共有することで地域の良さを知った。

- ・福井県教育委員会主催の「ふるさと福井CMコンテスト」に出品する作品を、二グループに分かれて制作した。

二年生の実践【地域に学ぼう】

- 職場体験「池田WAKU WORK」
- ・職場体験をメインに、町内の企業や公共施設について調べたり、働くことの意義を考えたりした。

- ・事前学習として、一般的な身だしなみや接客マナー等を身に付けるために、外部のマナー講師に依頼し、笑顔で接することや相手の立場に立つことの重要性を学んだ。
- ・町内六事業所で二日間にわたり、職場体験を実施した。公共施設や商業施設での人との触れ合いを通して、働くことの厳しさや楽しさを肌で感じ取ることができた。事後に各事業所からのアンケート評価の結果を校内に掲示し、生徒へフィードバックした。

三年生の実践

【地域の未来を考えよう】

- ・池田町は特産物や伝統料理をクローズアップした「食の文化祭」や、減塩や腸活を考える「脳べるプロジェクト」等の、食に注目した取り組みを行っている。今年の三年生も、二年生時から進めてきた「食」についての学習を深めた。
- ・町内の農作物や食材を使った加工

食品を取り寄せ試食し、修学旅行で販売する品物を選定した。

- ・これまでの学習成果をもとに、修学旅行で販売する時のセールストークを考えた。

・修学旅行において、新浦安駅前の広場で池田町の特産品販売を行った。

②三年間の交流

○学習成果の発表

- ・小規模校の強みを生かし、時間割を柔軟に変更し、学習成果の発表や生徒相互の意見交換の場、講演の聴講など、全校合同で実施する機会を積極的に設けた。
- ・一、三年生は、学習の様子を寸劇風にとまとめ、学校祭のステージ発表として、保護者や地域へ発表した。

- 入試対策「教えて先輩」
- ・二年生が、受験を終えた三年生から学ぶ「教えて先輩」を実施した。
- 次世代育成セミナー
- ・全校生徒対象に、職業と男女格差について考える機会を設けた。

- 高校との交流
- ・池田町と関わりの深い東京都立高校の学校祭や地域のイベントでの商品流通・販売の学習を利用し、高校生と交流することを通して、職業系の高校で学習するということへの理解につながった。

- ・池田町と関わりの深い東京都立高校の学校祭や地域のイベントでの商品流通・販売の学習を利用し、高校生と交流することを通して、職業系の高校で学習するということへの理解につながった。

③成果と課題

- ・キャリア教育の研究を進めるにあたり、校長として、ふるさと学習にポイントを絞り、教職員にその価値や体験活動の意義を理解させたので、学校全体として取り組むべき方向性や意識を一つにできた。また、地域人材の活用や行事への

積極的な参加により、生徒が地域の一員としての自覚を持ち、将来の自分の姿を見いだすことにつながった。

- ・地域の魅力は発見できているものの、過疎化・高齢化が進む池田町について、課題発見が不十分であった。そのため、池田町の発展に向けての課題解決策を考えるまでには至らなかった。

◎研究協議

（グループ協議の柱）

- 生徒のキャリア発達に資する、効果的な地域との連携・協働について
- キャリア教育及び進路指導の充実に向けて、どのように地域社会や産業界と連携協働し、人材や資源を有効活用していくかについて
- ・キャリア教育を進める上では、地元企業との関係性が大変重要であるとともに義務教育九年間の積み上げも考慮して取り組む必要がある。

- ・地元の特産物や地元企業等、地域の特色を生かした地域の人材との連携が大切である。企業がないエリアの場合、学校運営協議会メンバーである公民館長や自治会長を通じて、市の商工会議所に働きかけ、体験場所を確保している。

- ・震災を経験した石川県の学校では、一年で商店街の復興、二年で復興に向けた取材、三年で復興に向けた提言で進めている。あえて、まちに出かけることを通じて、地元の方々から声をかけてもらうことやモチベーションアップにもつながっている。また、体験した職場等からのメッセージも、活動の意

欲向上につながっている。

- ・学校規模により取り組みや課題が異なる。大規模校では職場体験自体の受け入れ事業所探しが大変であるが、小規模では地域のことは日々学習中であり、地域密着型の職場体験が可能となっている。
- ・キャリア教育をすれば地元に残るわけではない。キャリア教育と地域を知ることがリンクしていればいいが、最終目標がずれてこないように学校としてのビジョンをしっかり持つことが重要であるとともに難しさも感じる。

- ・キャリア教育を通して、地域のニーズにどうこたえるのかが大きな課題となっている。子供たちが地元に残ることとグローバルに世界に羽ばたくこと、この両面を考える難しさがある。

（春江中 近藤光彦）



学校の組織力を高める取組を通して

発表者 宮崎中 渡邊 進 午

◎発表要旨

令和五年三月、町内四中学校の校長が、教員の資質能力の向上や働き方改革をどのように進めていくかについて協議し、部活動の平日休養日をこれまでの毎週月曜日に木曜日を追加し、週二日とした。

宮崎中では学校の組織力を高め「チーム学校」を推進するために、木曜日の放課後の活用方法について、校長、教頭、教務主任で協議し、次の二つを目的に、新たに「プロジェクト会」を立ち上げた。

- ・各主任がリーダーとなって、教職員とコミュニケーションを図ること
- ・で、教員、専門スタッフの同僚性、協働性を高め「チーム学校」を推進する。

- ・本校の教育目標である「主体性、協働性、創造性の育成」を推進するために、教員と生徒の対話を十分に深める。

①実践事例

プロジェクト会は、三部会（生徒指導部、学習部、健康支援部）の各リーダーが中心となって開催した。

ア 学校祭の取組について

宮崎中では、九月上旬に体育祭・文化祭を二日間連続で開催し、生徒と教員が一緒になって創り上げ、すばらしい成果を挙げている。

その一方、教員の働き方をみると、九月は時間外の勤務が増える実態が

浮き彫りとなった。そこで、成果は維持しつつ、生徒、教員の負担を減らす方法について検討し、学校祭の内容を大きく変更した。

変更点は、今まで以上に生徒主体の学校祭にすることであった。生徒会執行部が中心となり、学校祭実行委員会を立ち上げ、「自分たちの手で一から創り上げる学校祭」をスローガンに取り組んだ。木曜日の放課後を活用し、生徒、教員が定期的に話し合いを重ねた。

イ 行政との連携について

毎年、二日間の職場体験学習を行っていたが、新型コロナウイルスによる三年間の中止があったため、受け入れ先の事業所選定をどのように進めて良いのか困っていることが判明した。

そこで、町役場に協力を依頼し、生徒の希望をもとに、受け入れ可能な事業所を紹介してもらった。職場体験の受け入れのお願いに教員が各事業所を回ることはなく、負担は大きく減った。また、「ようこそ先輩」

自分らしく仕事にチャレンジする先輩達」と題した講演会を開催した。講師選定等は学校の要望をもとに、町の総務課が担当した。

ウ 専門スタッフとの連携

気がかりな生徒について、プロジェクト会（健康支援部会）を定期的に開き、学校の対応について協議するとともに、専門スタッフと緊密に連携を図った。

スクールカウンセラーとの連携については、部活動終了後に実施していたケース会議を木曜日に開催することで、いろいろな立場の教員が参加可能となり、チームで対応することができた。

通級指導教室担当講師は、毎時間の記録を、校長、教頭、教務主任、特別支援コーディネーター、担任と共有している。情報交換がしやすく、タイムリーな学習を進められるので、通級している生徒は着実に力をつけている。また、定期的な校長との面談では、各生徒の課題や今後の進路指導等について話し合い、年二回の保護者との面談では、具体的な支援内容を伝えていく。

エ 教職員の協働性について

プロジェクト会では、教科会や若手教員の悩み相談会も行っている。「日頃の授業の悩みや授業づくりの視点についてアドバイスをいただきたい」、「生徒指導についても多くのことを学ぶことができた」等の声を聞くことができた。

② 成果と課題

- ・プロジェクト会の取組は、各教職員の限られた勤務時間をより有意義に使うことができ、コミュニケーションの活性化や生徒との対話時間の増加につながった。
- ・専門スタッフと話し合う時間が確保されたことで、方向性の共有や役割分担ができ、各教員の負担を軽減できた。
- ・働き方改革の視点では、時間外勤務時間は、前年度と比較して、全体的に二割短縮した。しかし、四五時間を超える教員がいるので、業務の見直しや専門スタッフとの

連携を、さらに強化する必要がある。

- ・コロナ禍が収束したことで、よりいっそう地域学習、探究学習に力を入れていきたい。そのためには、地域コーディネーターをはじめ地域との連携を深めていくことが不可欠である。
- ・地域との連携・協働による部活動改革の推進が必要である。

◎研究協議

○「働き方改革」を見据えながら、学校の組織力を高め、「チーム学校」としての機能を強化するため校長はどのように取り組んでいくか。

- ・本実践のプロジェクト会は、若手が自由に話し合えるので価値がある。その一方で、ベテランの教員がリーダーとなるだけではなく、コミュニケーションを大事にするのなら、若手がリーダーになるのもよいだろう。
- ・部活動終了を午後五時とし、その後に自由に話し合いをしたり、部活動のない日にミドルリーダーの得意分野についてアドバイスしたりする学校がある。
- ・チーム力を高めるために、現在のリーダーと次のリーダーになる教員が組んで活動している学校がある。また、職員会議資料を事前に回覧して意見交換しておいたり、朝の打合せをなくしたりしている学校もある。
- ・一部の業務を専門スタッフに委託したり、ICTを活用して業務を効率化したりして、時間外勤務をさらに減らすとよい。



（越廼中 見崎洋之）

- ・実践例のようなプロジェクト会や管理職との対話の場を設け、互いのコミュニケーションを促進し、チーム力を高めたい。また、教員の研修機会を増やすなどしてキャリアアップを支援し、専門性の向上を図りたい。
- ・本実践は、平日休養日を週二日に増やし、プロジェクト会を設立することで業務の効率化やコミュニケーションの活性化を図っている点が素晴らしい。教員の働き方改革と資質向上のための積極的な取組である。
- ・長時間の時間外勤務はどの学校でも課題である。地域連携をさらに深め、行政などの支援・協力を得ながら、教員の負担を軽減し、持続可能な体制を構築することが求められる。

校長三昧 点眼水

出会いとつながり

成和中学校長 安本 桂樹



私の父は、
高校の保健体
育科教員で、
部活動指導を
熱心に行い、

国体やインターハイに出場する
チームや選手を育てていました。
毎年正月には、指導する部活動の
生徒たちが自宅に遊びに来て、一
日遊んで帰ることが我が家の風物
詩でした。そんな、顧問と生徒の
関係に憧れ、私は教員を志しまし
た。残念ながら初任は小学校で、
部活動はありませんでしたが、体
育主任として、五月末にはプール
開きをし水泳、七月からは連合体
育大会に向け陸上、その後は器械
運動と、年間を通し、授業以外で
指導を行う機会を得て、充実した
教員生活をスタートすることがで

きました。

平成四年に地元の福井市に戻り
光陽中に勤務、いよいよ部活動を
指導することとなりました。バド
ミントン部の指導を任せました
が、思い描いていた人間関係を作
ることは難しく、思い悩む日も多
かったように記憶しています。た
だ、この年は、全中大会が北信越
で開催され、県中体連事務局が光
陽中にあったこともあり、県内外
の部活動関係者と接する機会を多
くもつことができました。また、
光陽中保健科の先輩方が、後に理
事長を務められたこと等々、この
つながりが私にとって大きな財産
（刺激）となりました。この「出会
い」とつながり」がなければ、今頃
は……？

最後に、これまで、特に今年度
八月に行われた全中福井大会では、
本当にたくさんの方々に助けてい
ただきました。心から感謝申し上
げます。ありがとうございました。

幸せな教員人生に

感謝をこめて

大東中学校長 永廣 裕子



夕暮れ時、
赤く染まった
空の下、大き
なかけ声を出
して部活動を

している子供たちの姿を眺めなが
ら「何て素敵な光景なのだろう」と
と最近しみじみと感じています。
同時に、夢と希望を抱いて成長し
ている子供たちに寄り添い、共に
歩んできたこの教員としての人生

は、「幸せだったなあ」と実感して
います。

教職に就いて三五年が経ち、振
り返ると、初めの頃は若さと情熱
だけで子供たちと接していました。
生徒指導がうまくいかず、涙を流
したこともありました。年を重ね
るごとに立場が変わり、視野が広
がり内面も変化しましたが、それ
でも悩みは尽きず、教員としての
あり方を考える日々が続きました。
しかし、そのような中でも教職を
続けられたのは、子供たちからも
らった多くの感動や喜び、そして
先輩方や同僚、地域の方々の支え
があったからです。全ての方々に
感謝の気持ちでいっぱいです。

現任校には二五年前にも勤務し
ており、当時の教え子が何人も保
護者になっていきます。子供たちの
姿を見ていると、当時の生徒と重
なり、嬉しく、懐かしく、そして、
当時は思い返すと、もつとできた
こともあったのではないかと感じ、
目の前の子供たちに対する責任の
重みが一層増します。

子供たちを取り巻く環境は大き
く変わりました。学校の中も課題
が山積みで、この先何が起こるか
予測できない状況です。前例踏襲
や様子見は選択肢にはないと言っ
ても過言ではありません。しかし、
子供たちが希望をもち、明るい未
来を夢見て人生を歩もうとしてい
る姿は、昔も今も変わりありませ
ん。

今の思いを若い先生方に託し、
子供たちにとって明るい未来が引
き継がれることを願い、たすきを
つなぎます。これまで、本当にあ

りがとうございました。

大切にすべきもの

角鹿小中学校長 岩崎 俊文



私の最後の
赴任校は、県
内で初の施設
一体型小中一
貫校、敦賀市

立角鹿小中学校でした。開校二年
目に着任しましたが、施設・設備
は未完成で、新型コロナウイルス
感染症が猛威を振るう最中でした。
手探りの中、試行錯誤しながら
新しい学校づくりが始まりました。
保護者の方からは、厳しい御意見
や御要望も寄せられ、心が折れそ
うになることもありましたが。しか
し、これらの御意見は「コロナ禍
であっても、施設・設備が整わな
い中であっても、子供たちに充実
した活動と体験をさせてほしい」
という想いの現れなのだと受け止
めました。

様々な価値観が渦巻く中、小中
一貫校ならではの学びをどう実現
させていけばよいのか。このこと
を、ずっと考えました。教職員や
保護者と話し合い、悩み、考える
中で、「大切にすべきは、子供た
ちの声や思いである」との答えに
たどり着きました。

小学生と中学生がともに学ぶ本
校だからこそできること。一人一
人が大切にされ、子供たちが主役
となる学校になること。これらが
様々な取組を通して、少しずつ形
になってきました。

小学校だけでなく、中学校だけ
でもない、特別な学びが本校には

あります。子供たちと教職員がと
もに校種や学年を超えて協働し、
ワクワクする学びと新しい価値を
創造する学校を目指して、歩みを
続けてほしいと願っています。

おかげさまで

中央中学校長 五十嵐靖浩



校長として
一三年ぶりに
戻ってきた中
学校。さて、
今どきの中学

生に何を話したらよいのか。やは
り今は「主体的に……」だろうか。
そこで思い出したのは、小学校長
と併設幼稚園の園長を兼ねた前任
校で、幼稚園研究会活動記録にあっ
た園児への声の掛け方の一つ、
「やってみよう」でした。でも、さ
すがに中学生には幼すぎるのでは
と不安でした。しかし、そこはこ
ちらも「やってみよう」で、一学
期始業式で全校生徒「○○○人
前にパフォーマンス。それ以来、
一点突破でこの合言葉を使い続け、
生徒からは「やってみよう」と逆
に笑顔で声を掛けられました。生徒
たちの温かさや純粋さに感動、そ
して感謝。また、この言葉は職場
の先生方にも伝えたいメッセージ
でもありました。変化の激しい時
代の中で、学校教育も新たな発想
でアップデートしていく大切さを
込めて。しかし言うに及ばず、本
校の先生方が日々、やる気に満ち
た表情で積極的にアイディアを出
し合う姿を見てこちらも笑顔。こ
んな職場に感謝です。
思い起こせばいつも傍には、温

かく言葉をかけてくださった管理職はじめ同僚の先生。バレーボール部で、素人の私に熱心にアドバイスをくださった県外を含め各校顧問の方々。純粋な生徒、協力してくださった保護者や地域、多くの方のおかげで、有意義な教員生活を過ごすことができました。「おかげさまで」の一言が、今、一番伝えたい素直な気持ちです。

明日は明日の風が吹く

開成中学校長 広瀬 泰司



「よし何でも新しいことに挑戦してやろう。」そう

息巻いて始めた校長生活でした。定期テストをやめて単元テストで評価しよう。生徒が参加する行事の挨拶は生徒に任せよう。休日の部活動を地域にお願いしよう。いろいろ挑戦しましたが、様々な壁にぶつかり、うまくできたことは半分以上でした。

それでも校長任用試験面接の最後に「校長の楽しさは何だと思えますか。」という質問に「学校をマネジメントできることです。」と答えたことの具現化はいくらかできたかなと思っています。

令和はじめのコロナ禍からその回復、また市の中学校再編による学校統合、設計から三年間の校舎長寿命化改修という、どの一年も同じではなかった時期に校長職を務められたことを幸運と捉え、何とか乗り切れたことを誇りとして、次の人生に向かおうと思います。

明日は明日の風が吹く、いつも心に言い聞かせてきた言葉をこれからも座右の銘として、絶えず前向きに生きていきます。

感謝

武生第三中学校長 高橋 直樹



初任地として赴任したのは旧今立町の花筐小学校でした。江田島

海軍兵学校出身の厳しくもユニークな校長先生に鍛えていただき、教員としての基礎を築きながら楽しい日々を過ごすことができました。

二校目は同じ旧今立町内の南越中学校へ異動でした。若くて力のある先輩の方々に教を請いながら、学習指導、生徒指導、部活動指導などを学ぶ毎日でした。その後、県中体連ソフトテニス専門部の副部長を断続的に、八年間勤め、大会運営や強化の推進、連盟との様々な調整などを学校業務の合間を縫って行う大変さも経験しました。同僚の先生方、保護者、ソフトテニス連盟の方など多くの方の支援で何とかやり遂げることができました。

その多くの方との関わりの中で学んだのは、「こちらが穏やかな気持ち、笑顔で接すれば、相手も同じように笑顔で対応してくれる。」ということでした。校長になっての五年間も人と接するときは「笑顔」を大切にしてきました。厳しさが必要な時もありますが、校長が笑顔を決やさず穏やかな気持ち

でいれば、一緒に働く先生方も少しは穏やかに笑顔でいい仕事ができるのではないかなと思っています。仕事に追われる先生方が、少しでも働きやすい職場と感じてくれるのは大切なことだと思います。なんとか最後まで仕事を全うできるのは、多くの方の支えがあったることだと思います。本当にありがとうございました。

学び続ける

大切さと難しさ

上志比中学校長 佐藤 成司



新採用として、志比小学校に赴任して三十七年。凡人代表のような

私が新採用の地で、ずっと教職を続けることができたのは、多くの先輩・同僚の方々から様々な事を学ばせていただいたからこそ、深い感謝を感じている今日この頃です。

校長職は四年間で、初年度はコロナの対応に明け暮れた一年間でした。未熟な校長ではありましたが、先輩の校長先生や町教委の助言もあり、危機管理の大切さを学

べました。その後二年間は、生徒から学びました。小規模校の生徒は、「真面目だけど大人しい」印象を持ったのですが、さにあらず。むしろ小さいときから一緒に過ごしてきたメンバーというところで、チームワークは完璧で、まさか、部員一三名の野球部が北信越に出場するとは思っていませんでした。

た。生徒・教員・家庭の意思疎通が細かく、素早い対応も可能な小規模校の管理職として、充実した学びを得ることができました。

ただ、今年度、私に一つ、学本事を疎かにしてきたことがあることに気づきました。それは、授業力です。代用教員が見つからないため、一〇月から私が授業に入ることになりました。日頃から、若手の授業で気づいた事をアドバイスしてきましたが、実際に教壇に立つと、五年間というブランクの影響は小さくありません。私の授業は経験頼みの過去の遺物であり、最新版にアップデートされていなかったのです。管理職としての学びはしてきましたが、本職の「教師」としての学びは、疎かになっていたことを痛感しました。

これからの学校教育現場はますます変わっていく、教員はそれに合わせて、自分を成長させていかなければなりません。学び続ける教員こそがこれからの学校に重要である事を、残された時間の中で、先生方に背中を語っていきたいと思います。それが、最後の私の学びだと思っています。

校長を終えるにあたり

勝山北部中学校長 斎藤 治



福井県中学校長会には、三年間お世話になりました。

これは、地区理事として理事会にも参加させていただきました。この三年間を振り返ると、やは

り一番に思い浮かぶのは、本年度福井市で開催された「東海北陸中学校長会研究協議会 福井大会」です。

昨年度の四月に実行委員会が立ち上がり、編集部長として、実行委員をさせていただきました。少ない人数で、費用と労力をできるだけかけずに、持続可能な研究協議会を目指して準備を進めました。

編集部としては、大会誌のモノクロ印刷、記念講演のネットでの配信、研究集録の分科会報告の簡略化などの提案をさせていただきました。実行委員、講演者の理解を得て、実現することができました。費用の削減や編集部員の校長先生方の業務の軽減を図れたのではないかと思います。福井県の取組は、来年度の岐阜大会へ引き継がれると聞いています。

また、今年度は中教研の改革が提案されたことも大きな前進だと思っています。

定年延長となり、この三月に役職定年を迎え、あと二年教諭に戻り、地元の学校教育に貢献していきたいと思っています。

最後に事務局のお二人にも大変お世話になりました。ありがとうございました。

今後の福井県中学校長会のますますの発展を祈念しています。



力いっぱい

荻原中学校長 松原 正恭



金津中学校
二〇年間、荻原中学校一〇年間、県教育庁八年間の教員生活が過ぎようとしています。

タイトルは、学級担任をしていたときの学級目標及び学年主任をしていたときの学級通信の表題であり、二六年間一度も変えませんでした。子供たちには、常に自分のできることを何事にも精いっぱい取り組もうと語り続けました。自分にも言い聞かせ、自分なりに歩んできました。

タイトルの原点は、四八年前の小学校の卒業式に学級担任からいただいた「敗北は自分の内から生ずる やる気をなくさない限り失敗はあり得ない 成功にはあと一步の努力と辛抱である」という言葉です。色紙に書かれたもので、今でも部屋に飾ってあります。言葉は未来や生き方を強く支える力があります。普段何気なく使っている言葉にも真心をのせることの大切さを感じています。

また、一日一日を大切に生きるという意味で「今を生きる」という言葉も常に自分の胸に刻んでいます。子供たちにも、今を大切に丁寧に前向きに生き、感謝できる自分をつくってほしいです。

最後に、校長として四年間続けられたのは、教職員をはじめとする素晴らしい仲間との出会いがあったからこそだと思っています。お世話になった全ての皆さまに心

から感謝申し上げます。これから「力いっぱい」歩んでいき、未来のために、いい祖先になるよう生きていきます。

経験が支えに

足羽中学校長 松山 幸市



思えば、いろんなことを経験した教員人生でした。結論、幸せな

教員人生だったなあと感じるのですが、思い出されるのは、幸せな出来事より、辛かった出来事の方が多いかもしれません。

「どうしてこんな目に遭わなくてはならないんだ」「こんな事ってあつていいのか」「もういい加減にしてくれ」、なんて思うことが多々ありました。今では考えられないようなことばかりです。そうなる授業どころじゃありません。一日中頭の中はそのことについています。対応に明け暮れた日々を思い出します。

しかし、今の自分がここにあるのは、その辛い出来事の一つ一つから逃げないで、立ち向かい、もがきながらもそれを乗り越えてきたからに他なりません。ただ決して、自分一人でその困難を乗り越えたのではなく、当時の上司であった管理職、学年主任、生徒指導主事、同僚、私に関わる多くの方々の助けや支えがあったからです。本当に感謝です。今、私が校長という立場になり、その職責も終わろうとしています。あの経験があったからこそ、この職を全うできた

のではないかと思います。あの経験が学びとなり、私を支え続けてくれました。ということは辛かった出来事にも感謝なのかもしれません。

これまでの様々な経験と皆様からいただいたご支援が今の私を形作っています。これからの新たな道の糧にして、少しずつでも前へと進んでいきたいと思っています。

感謝

三国中学校長 西 健



高浜町立音海小中学校を皮切りに、坂井地区の中学校や行政で仕事

事をさせていただきました。若手時代は、授業や学級経営、部活動等について、先輩教員から多くの助言をいただき、自分を成長させることができました。当時関わった生徒からも様々なヒントをもらいました。

教頭になる前、校長経験があるある先生から「様々なタイプの校長先生がいっぱいいる。教頭として、校長先生のよさが発揮されるよう動けるとよいね。」と助言をいただきました。教頭職のときはその助言どおり動くことができなかったのですが、校長になって以降は、校長の部分を教頭・職員等に置き換えて、学校運営を行いました。丁寧なコミュニケーションを通して、風通しのよい職場づくりに努めました。

また、学校運営に携わった教頭

出会いに感謝

越前中学校長 川上 一規



校長としての楽しみは、子供たちが先生たちが元気に毎日を過ご

している様子を見守ることです。そのために、私が心掛けたことは、自分自身が笑顔でいること。全校集会では子供たちに、なつてほしい姿を伝えること。職員会議では、教育理念を伝える先生たちに自分の夢に向かって挑戦してもらおうこと。そして毎月の便りでは、子供たちの頑張っている姿を保護者の方にたくさん紹介することでした。

「三方よしの学校づくりを通じて地域社会に貢献せよ。」校長就任時に尊敬する先輩からの言葉を胸に刻み、「凡事徹底」を信念にこれまで勤めることができました。頑張

る子供たちから元気をもらい、理想をもった先生たちに助けてもらい、地域の方々に支えてもらいながら、学校は少しずつ地域貢献活動ができるようになってきました。今年度始めたこれらの活動が今後継続され、新たな地域貢献の種が芽吹くことを楽しみにしています。また、コロナの収束が見え始めた頃、親子で感染対策に万全を期してもらい東京への修学旅行に踏み切りました。子供たちの満面の笑みを見て、子供、家庭、学校の絆を実感できました。

今までに多くのご縁とつながりをいただき、私自身も成長させていただきました。このことに関して皆様方に深く感謝申し上げます。また、教職という仕事に出会え、今まで続けることができて本当に良かったと思います。ありがとうございます。

感謝

武生第五中学校長 大橋周一郎



教員生活を振り返ってみますと、感謝の一言しか浮かんできません。

昭和六十二年四月、敦賀市で教員生活を始めました。親元を離れ、職員寮で生活することになり、何もかもが新鮮だったことが思い出されます。授業や部活動、生徒指導など、いろいろなことが、大学で習ってきたこととは大きく異なり、上手いかわからないことばかりでした。しかし、そのような私を支えて、御指導してくださったのが、

職場の先輩や同僚の先生方でした。くじけそうで心が折れそうな時に、寄り添って話を聞いてくださったことが、今、教職を続けられている源になっています。

また、出会ってきた多くの生徒や保護者、地域の方々に本当にお世話になりました。その出会いに感謝しかありません。

校長としての最後は、武生第五中学校という素晴らしい学校で勤務させていただきました。全校生徒はわずか二八名という小規模の学校でしたが、緑に囲まれた環境のもと、素直な生徒と教職員、温かい保護者や地域の方々と過ごしたかけがえのない二年間でした。

これからの社会は、予測不可能な時代です。その中でも、校長はいろいろな場面で判断を迫られます。学校として何が必要なのか、最優先すべきことは何なのかを見極め、子供たちの輝く未来を支えていってほしいと思います。

愛しき日々

清水中学校長 牧田 菊子



ある日のお昼の放送で、放送委員が「学習や部活で壁にぶつ

かったと感じているあなた。そんなあなたにこの言葉を送ります」と紹介した言葉があった。「アスファルトの道と砂の道、あなたはどちらを選びますか？アスファルトは歩きやすいですが、足跡が残るのは砂の道です」ポジティブなこの言葉に思わず笑みがこぼれた。

自分のことを振り返ってみると、壁にぶつかることと多々あったが「砂とアスファルト、どちらを選ぶか」の意識もないまま、目の前のことに悩み、迷い、喜び、哀しみ、楽しみに心揺さぶられる日々の積み重ねであったと思う。そういう意味では、図らずも「砂の道」だったかもしれない。同僚の方々と生徒達をはじめ三八年という年月の中で出会った多くの皆様の顔が浮かび、笑いあり涙あり共に紡いだ数々のシーンが蘇ってきて、胸が熱くなる。感謝の気持ちでいっぱいになる。

現任校に赴任した時、一人の保護者が「先生！」と声を掛けてくれた。初めて担任した小学一年生一八名の一人であった。当時の顔がパッと浮かび、一気にタイムスリップして、何とも言えない懐かしさと、中学生のお母さんになった〇〇さんに再会できた嬉しさがこみ上げた。おかげで、現任校には赴任当初から親しみがわいた。三年たった今、退職を目前に「学校ってやっぱりいいな」という感謝を強くしている。

愛しき日々感謝である。

感慨・感謝・感無量

安居中学校 野坂 訓由



教員としての三八年間は、あつという間でした。

学校をかわきりに、数え上げると九校に奉職し、そのつど同僚・上

司と子供たちに恵まれて、たくさん教えを受けました。途中中学校現場を離れることもありましたが、教員ではない多くの人たちの考えに触れることができたのも、世間を見る目を養うことにつながり、今ではとても有り難いことであつたと感じています。出会いのあつた皆様に、改めて感謝を伝えたいです。

三〇代の頃、うまくいかずに職員室で一人イライラとしていた時に、当時の教頭先生が私にこんな言葉を掛けてくれました。

「甞勉（びんべん）従事 敢不告勞 これが野坂さんのいいところや。竹はまっすぐで強いけど、ポキッと折れることがあるで、時々力抜けな。」

懸命にことに努め、その苦勞はあえて口にしない、とその先生は私を評してくれた上で、自分自身もいたわれと論じてくださったのです。その氣遣いに深く感謝するとともに、以来この言葉が私の心の支えとなりました。

私が校長として学校を預かる立場になった時、自分自身が職責を全うすることはもちろん、職場のメンバーが、自律的にやりがいを感じながら子供たちの成長を実感できる職場づくりを目指してきました。実現できたかどうか、それはこの任を解かれるときに、仲間とともに真摯に振り返りたいと思っています。



原点は「ボンコツ」理科教師

織田中学校長 林 明宏



私は授業が下手な教師でした。また、人見知りで口下手、当然人付き合いも苦手でした。つまり私は教師に向いていなかったのです。

そんな私にとって、教師を続けるためには、本務たる「理科の授業」の腕を磨くしかありませんでした。不器用で融通が利かない性格のため、何種類もの教材研究を短時間では行えませんでした。当然毎日のように長時間勤務でした。今の時代ならとうてい認められない働き方だったと思います。

なかでも最も時間と労力をかけたのは、実験の準備でした。生徒の学ぼうという意欲を高めるために、授業前半または終末に行う演示実験には特に準備に莫大な時間をかけました。苦勞の甲斐あって、たまに生徒の目が輝く瞬間に立ち会えることができました。心の中で何度もガッツポーズをしたものです。

私がこれまで勤め上げることができたのも、研究や工夫、準備に時間を忘れて没頭した、あの日々があればこそだと思います。そしてそれを支えていただいた上司、先輩、同僚の先生方、数知れない研修会や講習会で御指導していただいた先生方には、この場を借りてお礼を申し上げます。

この会の性質上、管理職になって以降のことを書き綴るべきなの

かもしれませんが、私のベースが教諭時代の苦勞した日々にあったとの強い思いからこのような内容になりました。ありがとうございました。

感謝

坂井中学校長 林田 俊治



役職定年を間近に控え、日常の一つ一つが校長としての最後ののだと実感してきました。

これまで失敗続きの私に、先輩の先生方はたくさんの方々の不易を教えてくださいました。おかげでこんな私でも少しは成長できた気がします。改めて、今まで私を支えてくださったたくさんの方々に心より感謝申し上げます。

特に一五年間お世話になった三国中学校では、教員としての原点を学びました。例えば、学習指導では丁寧な板書や心を引きつける説明など「分かる」授業だけを考えてやってきました。緊張感あふれる授業の中にも子供たちの笑顔をとくさん見ることができました。

また、部活動指導では基礎基本の徹底、人として大切なことを厳しく指導してきました。あれほどの練習に耐えてきた選手たちとは今でも親交があり、会を開くごとに、楽しい昔話に花が咲きます。

管理職になった直後は正直戸惑いがありました。知識もスキルもない私ができる学校経営とは何か。それは、私の得意分野である人を笑わせること。教職員がいつも笑

顔でニコニコしていれば、子供たちはきつと安心する。安心した子供たちには居場所が保証され、学校に通うのが楽しくなる。そうなれば、子供たちは自らの力で判断し、行動する機会が増えるのではないかと思つたのです。成果が表れるのはずっと先かもしれませんが、今までの御恩返しのため、この取組をあとしばらく続けていきたいと思っています。

回想

万葉中学校長 坂下 博行



新採用の赴任地は武生第二中学校でした。最初は授業づくりに四

苦八苦、毎日が自転車操業の連続でした。二月頃でしたか、ある生徒に「先生、教え方うまくなったなあ」と掛けられた一声がうれしくて、その時のシーンを今でも鮮明に覚えています（その生徒は、今や市教委の学校教育指導室長となり、こちらが教えをいただいています）。

三〇代後半からは研究主任を務めさせていただくことが多く、国立教育政策研究所指定の目標に準拠した評価の研究、県視聴覚教育研究部指定のICTを活用した授業づくりの研究、教職大学院在籍時には、学び合う教職員集団づくりの研究を担当させていただきました。ただ、当時の管理職の先生方にはほとんど相談もなしに好き勝手に進めていたことを思い返すと、冷や汗もので、当時の校長先

生方の度量の大きさと一緒に実践を進めていただいた同僚の先生方には感謝の思いしかありません。また、子供たちに力をつけるためには、大人の力量形成が大切であると感じたことは校長を目指すきっかけとなりました。

現在の勤務校は三〇代の頃に九年間勤めていた学校。その頃の生徒の子供たちが大勢いて、なんだか孫を見守るおじいちゃんのような気持ちで毎日を通しています。残りの任期もわずか。教師不足が叫ばれる今、彼らの中から教職を目指す者が一人でも多く現れるよう、魅力的な学校づくりを進めてまいりたいと考えています。

教職人生への感謝

光陽中学校長 水野 克己



私の教員生活は、名田庄中学校から始まりました。職場や地域の

皆様に温かく迎えていただき、教員としての基礎を学びました。それから三十八年。時代は昭和、平成、令和と移り、私は役職定年を迎えました。この年月は、教職の物差しで見れば一塊の時間のようです。失敗や苦勞もありましたが、今はただ充実感で満たされています。

私の教員生活を支えてくれたのは、共に歩んだ多くの先生方と子供たちです。職場での真剣な議論や何気ない会話、授業や行事、部活動で見た子供たちの笑顔や真剣な表情。それら

べてが私にとってかけがえのないものでした。教職の魅力はそこにあると感じています。これまで関わってくださった全ての皆様に心から感謝申し上げます。校長として私が目指したのは「学校が楽しい」こと。それは今

だけでなく、将来の生徒や教職員にも共通する願いです。その実現に向け、授業改善や業務改善、働き方改革に取り組みましたが、「働きがい」と「働きやすさ」の調和に苦心し、十分には進められませんでした。

次代の校長先生には、御自身の魅力や存分に発揮しながら、学校の楽しさや教職の魅力を発信していただきたいと願っています。

捉え方変換

国見中学校長 正玄 努



最初の研究授業後「授業になっていない。」と酷評されても、「でも伸びしろはある」と勝手に解釈した私。生徒指導で、興奮した生徒が怪我をしないために体を張って押さえたり、若い衆数人を引き連れた方々と対峙したり、県外の施設で卒業証書を授与したりしても、部活動顧問として、想像を絶する重圧の中、地元開催全中福井大会を迎えても、さらには国体前の県スポ課に異動し「お気の毒に」と言われても「しんどくてもなかなか経験できないことで勉強させてもらっている」と自らを鼓舞し

た私。私が無事役職定年を迎えられたのも、この妙に前向きな捉え方変換と周りで支えてくださった方々のおかげと、心から感謝しています。

東北福祉大の長田先生がおっしゃいました。「教師は大変で苦勞が絶えない職業だが、様々な学校行事や卒業式に象徴されるこの仕事特有の達成感という『実』を収穫する季節があり、思いを通わせた生徒や保護者、地域とのつながりは『生涯の宝物』となる。」校長先生方には、どうか、生徒や先生が楽しさと共に自分の学校や仕事に誇りをもてるよう、明確なビジョンを共有し、知恵を出し合い無理なく具体的な方策を実践しながら学校経営を進めてください。

自分も教員としては通過点。まだまだ頑張りたいと思います。

校長をやってみて

陽明中学校長 大石 貴昭



校長新任校は陽明中学校区の下庄小学校でした。登校時から笑顔

いっぱいの子供。児童を迎え笑顔があふれている職員。「小学校っていいな」と思いました。半年ほど経った頃に県外の学校を視察したことが転機となりました。「同じ小学校でもこんなに違うのか」と。それから『学校力』の向上を目指して、フリートークを核とした学校改革に取り組みむことになりました。学校全体で

編集後記

皆様の御協力を賜り、第一四九号を無事発行することができました。この一年、原稿執筆に御協力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。